

国立国際医療センター(IMCJ)の ミッションについて

中間報告

(抜粋)

平成19年6月

国立国際医療センターのミッションに関する検討委員会

(抜 粋)

1. 国際保健医療協力について (略)

2. 今後NCとしてのIMCJが担う疾病対策について

(1) 感染症対策 (略)

(2) 糖尿病及びいわゆるメタボリックシンドローム対策

わが国の死因において大きな位置を占める生活習慣病への対策の柱としては、全国的に予防から合併症治療までの、「糖尿病を中心とした予防・治療体系」を作り、タイプ・ステージ別の個体差に基づく医療の均てん化を目指すことが大切であるとされている。

平成19年4月に策定された「新健康フロンティア戦略」においても、糖尿病等生活習慣病について個人の特徴に応じた予防・治療に関する司令塔作りが求められており、そのための効率的な施策推進に向けて、栄養研・IMCJ・国立循環器病センターなど関係する諸機関が連携し、それぞれの分野において専門的機能を全国レベルで十分に発揮する必要がある。

この点に関しては、現在、厚生労働省において細部の検討が進められており、基本的にはその結論に沿った仕組みの中でIMCJとしての機能を十分に発揮できるよう対策を立てることになる。

糖尿病対策等においても前述の肝炎対策における仕組みと同様、地域の医療機関等への支援を中心に地域診療ネットワークの強化を通じた治療レベルの向上という方法が望ましいと考えられるが、どのような仕組みであれ、IMCJとしては臨床開発研究(*)を推進し、エビデンスに基づいて標準化した予防法・治療法の全国への均てん化を図ることが必要であり、それらの機能を十分に発揮できる糖尿病・代謝症候群センター(仮称:**)を整備し、以下の役割を担うべきであると考ええる。

(*) 臨床開発研究として

基盤的研究から臨床応用レベルまでの一連の流れとして以下のようなものが考えられる

- ・ 候補遺伝子アプローチまたは全ゲノムスキャンによる遺伝素因の解明
- ・ トランスクリプトーム解析やプロテオーム解析による内臓脂肪に特異的なバイオマーカーの同定など
- ・ 内臓脂肪の非侵襲的簡易測定法の開発
- ・ 基礎代謝の簡易測定法開発
- ・ 糖尿病合併症の発症リスク因子の同定
- ・ 有効な健診・保健指導法の開発
- ・ 臨床指標・バイオマーカー・遺伝素因の組み合わせによる糖尿病患者の合併症のリスク予測法の開発など

(**) 糖尿病・代謝症候群センター(仮称)

- ・ 診療部門(専門診療)
 - E BMに基づく標準的予防・治療法の均てん化のための治療実践
- ・ 情報提供・研修部門 厚労省研究班とのコラボレーション(研究班成果の発信)
 - 専門家(&一般・行政)向け診療情報発信機能及び研修
- ・ 臨床開発研究部門 最適な予防治療法の確立のための研究
 - 臨床試験ネットワークの中核的機関としての機能

(3) 免疫・アレルギー性疾患 (略)

3. 高度専門・総合医療の均てん化のための人材養成・研修と医療安全技術の開発・普及について (略)

4. 臨床研究・治験の推進のための基盤整備について (略)

5. NCとして高度専門医療の均てん化に必要な情報収集・分析・発信について (略)